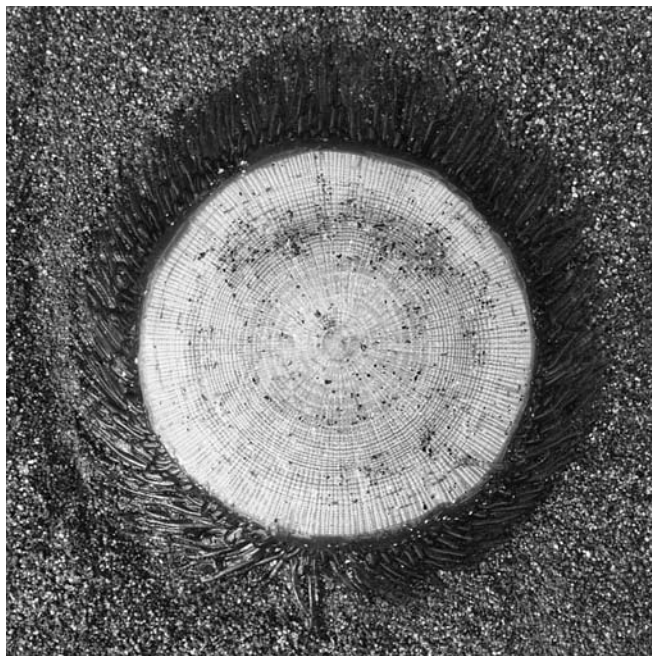


銀貨と瑠璃、北海道初上陸



石狩浜に漂着したギンカクラゲ。
白い円盤の周囲と裏には青い触手がたくさん生えています。

この秋、浜辺で“銀貨”を拾いました。

銀貨といっても、ギンカクラゲのこと。見た目はまるで牛乳ビン、青いビニールを被った紙キャップ。直径2〜4 cmほどの白いキチン質の円盤状の浮き（これが銀貨にも見える）と真つ青な触手を持つ、熱帯〜温帯の海面を漂うクラゲです。その形・色はちよつと人工

的で、知らない人が見たら生き物とは思わないかもしれません。平成19年9月下旬、石狩の砂浜に漂着しているのを当館の調査ボランティアの方が発見しました。

ギンカクラゲは西日本ではときどき大量に漂着することがありますが、これまで北海道で見つかったという報告はありませんでした。今回がどうやら北海道初上陸です。その後もどんどん漂着は続き、10月下旬まで数多くのギンカクラゲが見つかりました。

そんなギンカクラゲの中に、いくつか変わったものがありました。円盤の縁に、パンチで開けたような穴がいくつも開いているのです。これは実は、ギンカクラゲが食べられた痕跡。食べた犯人は、ルリガイです。

ルリガイとは、やはり熱帯〜温帯の海で見られる、まさに瑠璃色（薄い青紫色）をした巻貝。貝殻は、うかつに触ると割れてしまうくらい薄く、繊細です。ほとんどの貝の仲間は海底で生活するの

ですが、ルリガイは例外で、海面に浮かんで暮らしています。

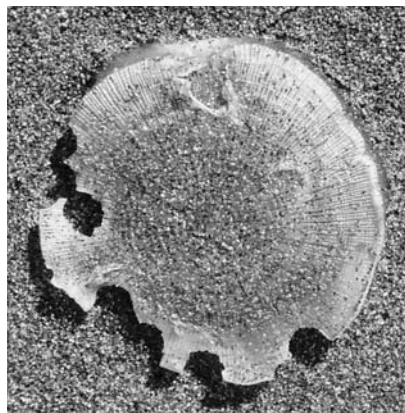
体から出した粘液で浮き袋を作り、薄く軽い貝殻を浮かばせるのです。このルリガイの大好物がギンカクラゲで、ギンカクラゲの漂着する所には、それを食べていたルリガイも一緒に漂着することが多いのです。そのルリガイも、10月には石狩浜で発見されました。こちらも北海道では前例がありません。

ここ数年、エチゼンクラゲやアオイガイといった南の海の生物が、北海道沿岸まで頻繁にやってくるようになりました。そして今回のギンカクラゲとルリガイの北海道初上陸。これらの現象は、この数年がたまたま暖かかっただけという一時的なものなのか、今後進行していく温暖化の一端なのか。それはまだ分かりません。

（志賀健司）



北海道で初めて見つかった
ルリガイ（石狩浜）。
美しい瑠璃色の貝殻です。
現在、資料館で展示中！（3月30日まで）



縁を食べられた
ギンカクラゲ。

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館
☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp